

えましよう。非上場企業でも活用出来ます。連結会計は、グループ全体の企業価値を把握すると共に、グループ企業間の不正・粉飾決算の影響を排除することが出来る仕組みと捉えましょう。

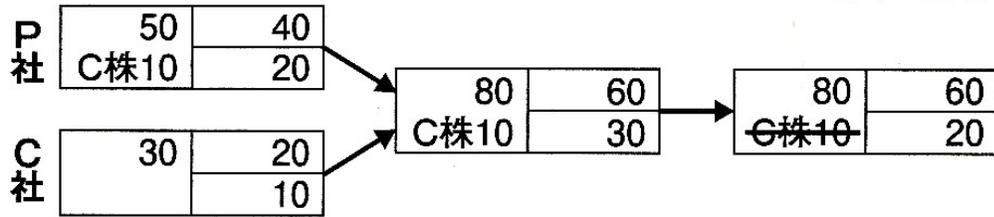
図表 5-6 連結のプロセス

5つの連結プロセス＋筆者追加の⑥

① 投資・純資産の相殺消去

親会社の投資と子会社の純資産を相殺消去する

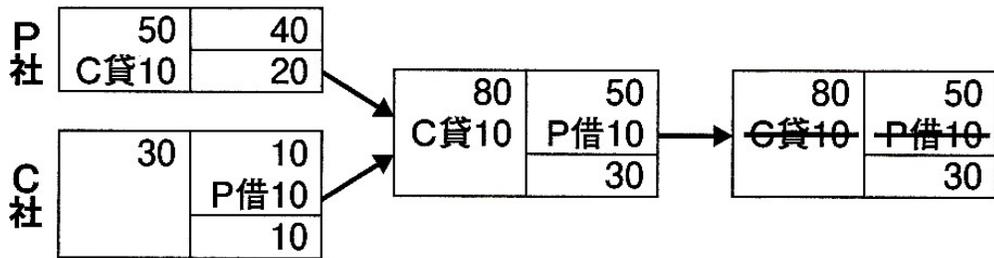
(単位:万円)



② 債権・債務の相殺消去

親子間、子と子の間で対応する債権と債務は、互いに相殺消去する

(単位:万円)



(注) ①②を同一連結会計で行った場合は、投資・純資産10、債権・債務10が相殺され、下表の様になります。

70	50
	20

③ 売上・仕入の相殺消去

グループ内の会社との取引で、売上と仕入を相殺消去する

④ 受取配当・支払配当の相殺消去

親子間の配当を相殺消去する

⑤ 未実現利益の消去

親会社の子会社に原価70万円のものを100万円で売り、これが子会社の在庫としてあったとすると、親会社の利益30万円はまだ実現していない利益、「未実現利益」として消去する

⑥ (筆者の追加)

- 上記①～⑤が終了した後、まだ残っているグループ企業間の相殺不能取引(連結差額)に注目し、不正取引との疑念を持って調査し、適切に対処する。
- この機会に、グループ企業の「未・仮・前」の仮・経過勘定を徹底的に調査し、適切に対処する。
- 在庫、借入などの資産・負債の異常な変動に注目し、調査し、適切に対処する。